

伊原直子 メゾソプラノ リサイタル

ピアノ：森島英子

1部

献呈……………シューマン
間奏曲……………シューマン
くるみの木……………シューマン
君は花のごとく……………シューマン
ジプシーの歌 Op.103……………ブラームス

2部

歌劇「ミニヨン」より
君よ知るや南の国……………トーマ
歌劇「サムソンとデリラ」より
愛よ弱い私に力を貸して…サン・サーンズ
君がみ声に我が心開く……サン・サーンズ
歌劇「カルメン」より
ハバネラ……………ビゼー

夏

1996 四季コンサート ふれあい音楽会

1996年7月6日(土) 6:45PM

会場：浜松市教育文化会館

主催：浜松音楽友の会

所各講師。
足学園大学、オペラ研修
受賞。東京芸術大学、洗
年度新日録音楽賞特別賞
しても活躍している。94
ール、チェンバリストと
他オペラのホルン奏者
アリストとしての活動の
の伴奏や室内楽、ソロピ
リヒター氏師事。声楽家
ト科修了。コンサート・
ト音楽大学に留学。リー
て西独シエッタウツガル
度芸術家在外研修員とし
中山節一氏に師事。82年
大山節一氏、ピアノ伴奏を
ピアノ卒業。ピアノを中
東京芸術大学音楽学部で

森島英子 (ピアノ)

二期会員。
を代表するソリストとしての地位を揺るぎないものとしている。
スベシキリストとしての名声が高く、その幅広い演奏活動は名実共に日本
オペラを初め宗教曲や第九のアルトソロ、また歌曲はとりわけマラーの
歌う。その後もフランス、ベルギー等で活躍し、1981年に帰国。その後は
のタートルロール、[トロワノット] (A・エレーヌ指揮) のアスチエナを
受難曲と数多く歌う。1980年二期会オペラ公演「カルメン」(小澤征爾指揮)
でも「ボリス・ゴドゥノフ」「カルメン」を歌う。コンサートも「復活」「マタイ
リート」等歌い、ザルツブルグ、ルツェルン音楽祭、西独
スノーベル劇場) と専断契約を結び、「カルメン」「オルフェウス」「ジークン
ストラと共演し高い評価を得る。1975年フランスのライオンオペラ(ストラ
続いて「カルメン」のタートルロールで好評を博す。N響はじめ主要オーケ
でオラトリオを歌う。1969年「ライオンの黄金」のエルダでオペラデビュー。
し、E・ヘンリガー氏に師事。傍らベルリン歌劇場他、ドイツやスイス各地
賞受賞。1971年西独政府給費留学生としてミュンヘン国立音楽大学に留学
M.B.C.A.] 賞受賞。第8回ウインナウ・ホルトオペラ賞(現シロ・オペラ賞) 大
諸氏に師事。1967年安宅賞受賞。1970年芸術選奨文部大臣新人賞、及び
ピアノ卒業。ピアノを中

伊原直子 (メゾソプラノ)

トロワノット

伊原直子 メゾソプラノ
リサイタル



NAOKO IHARA
MEZZO SOPRANO
RECITAL

●献呈 歌曲集「ミルテの花」作品25より／シューマン

全26曲からなる歌曲集「ミルテの花」の第1曲。詩はリュッケルト。この歌曲集は、ゲーテ、リュッケルト、バイロンなどの詩に作曲されたもので、いわゆるチクルス（連作歌曲）ではないが、強いて一貫性をいえば、ほとんどの詩が恋愛に関係のある叙情的な内容をもっているという点だろう。「献呈」は、況剣としたピアノの伴奏によって、恋人を想う心がきわめて率直に歌われる。後奏にシューベルトの「アヴェ・マリア」の一節が出てくるのも決して偶然ではないだろう。

●間奏曲 歌曲集「リーダークライス」作品39より／シューマン

“ドイツの森の詩人”といわれるアイヒェンドルフの詩による歌曲集（全12曲）の第2曲。ピアノと歌のこまやかなニュアンスに満ちた応答などナイーヴな美しさに満ちている。

●くるみの木 歌曲集「ミルテの花」作品25より／シューマン

同歌曲集第3曲。木の葉のざわめきを想わせるようなピアノの色彩豊かな分散和音の伴奏によって歌われる。一見単純なメロディだが、一度聴いたら忘れられない美しさをもっている。詩はユリウス・モーゼン。

●君は花のごとく 歌曲集「ミルテの花」作品25より／シューマン

同歌曲集の第24曲。ハイネの詩によっている。シューマンらしい感傷とこまやかな叙情にみたまされた傑作。シューマン独特の和音連打の伴奏音型も印象的である。

●ジプシーの歌 作品103／ブラームス

ブラームスがハンガリー・ジプシーの音楽を好んで書いたことは、いまさら言うまでもないだろう。〈ハンガリー舞曲〉などのように直接その名が付けられていなくても、室内楽などに多くのハンガリー・ジプシー的音楽が聴かれる。

この「ジプシーの歌 Zigeunerlieder」作品103は、本来ピアノ伴奏をもつソプラノ、アルト、テノール、バスによる四重唱のための作品（全11曲）だが、第1～第7曲と第11曲が独唱用に編曲されたものである。すべての曲が4分の2拍子で書かれている点など、ジプシー的な色彩がきわめて鮮やかに描かれている。

「おお、ジプシーよ」「浪だつりま」「いつかご存じ」「神さま、あなたは知っておいで」「日焼けした若者」「三つの赤いばらが」「聖なる誓い」「赤い夕焼け雲」

●歌劇「ミニヨン」より 君よ知るや南の国／トーマ

A.トーマ（1811～1896）は、フランスの作曲家。とくにオペラに人気を博した作曲家だったが、今日演奏されるのは、ゲーテの「ヴィルヘルム・マイスター」による歌劇「ミニヨン」くらいだろう。中でもミニヨンによって歌われる『君よ知るや南の国』は名曲として知られている。

●歌劇「サムソンとデリラ」より 愛よ弱い私に力を貸して 君がみ声に我が心開く／サン＝サーンス

華麗な色彩をもつピアノ協奏曲などで有名なサン＝サーンス（1835～1921）は、生涯に13曲ものオペラを書き残したが、今日上演されているのは、この旧約聖書に題材をもつ「サムソンとデリラ」だけである。

ベリシテ人の横暴に苦しむイスラエルの救世主として立ち上がった無双の怪力の持ち主サムソンと、彼の弱点を探るべくベリシテ人が放った妖艶な美姫デリラ。「愛よ弱い私に力を貸して」は第2幕冒頭で、サムソンを待つデリラによって歌われるモノローグ。「君がみ声に我が心開く」は、同じく第2幕でサムソンの愛の告白に喜んで歌うアリア。感情の高ぶりが官能的に歌われる。オペラの中でもっとも有名なアリアである。

●歌劇「カルメン」より ハバネラ／ビゼー

ビゼー（1838～1875）最後のオペラ、とはいっても、この夭折の天才のわずか35歳の時に書かれた作品である。この、スペインを題材に持つ傑作については説明するまでもないだろう。「ハバネラ」は、第1幕（第5曲）で、4分の2拍子のハバネラのリズムによってカルメンによって魅惑的に歌われる、ホセを誘惑する歌である。